

平成 16 年 4 月吉日

日本造血細胞移植学会
会 員 各 位

理事長就任に当たってのご挨拶

小 寺 良 尚
(名古屋第一赤十字病院
第四内科・骨髄移植センター)

春陽のみぎり、会員の皆様にはご清栄の段、大慶に存じ上げ奉ります。

この度、皆様のご推挙により本学会の理事長職を拝命することとなりました。1978年に第一回骨髄移植懇話会として発足、1980年、第三回目に骨髄移植研究会と名称を変更、1996年第十九回目に学会となって今年度第二十七回総会を迎える本学会は、会員数 2,100 名、理事・監事数 21 名、評議員数 99 名、各種委員会数 8 委員会と発展し続けており、多くの業務を遂行してゆく上で理事長制を採った方がよいとの学会あり方委員会の答申に基づくものであります。大変な重責であり、心を引き締め会員皆様のご期待に添いたいと考えています。皆様もご承知のように、本学会の特徴は 1) 今年で発足 27 年目になるとはいえ未だ若い学会であること、2) 医師、看護師をはじめとする医療従事者のみならず関連機関の構成員やボランティアの方達等が対等に参加する学会であること、3) 移植データの全国集計事業に象徴されるように、会員、チーム間の結合力が強い学会であること、4) 移植医療、再生医療、自己修復能力を利用した医療、といった今日的、近未来的テーマに携わっている学会であること、5) 国内、海外の関連学会、関連機関との連携が活発であること、などが挙げられます。これら良き特質は歴代の会長をはじめ会員皆様のたゆまぬ努力の蓄積の結果であり、これからも決して気を緩めることなく守り育てていかなければならないものであります。若い会員に出来るだけ早く活躍の場を提供すること、若い会員は先輩たちの実績を踏まえた上で新しい事を始めること、各層の会員はお互いに尊重し合うこと、全国集計の登録率の一層の向上を図るとともに、始動し始めた臨床研究委員会を活用しわが国のこの分野における真の意味でのエビデンスを作ること、造血幹細胞移植療法の最大の特徴である高い治癒率、社会復帰率を今以上に高め、それによって医療効率向上に貢献するとともに、この特質を血液関連疾患以外にも広めてゆくこと、国内外の関連学会との交流を保つことにより、本学会の果たすべき役割と方向性を常に明確にしておくこと、を共に心がけたいと思います。造血細胞移植に関わること全てにおいて、データを求められ、見解を求められ、最終的な判断を求められるのは本学会であります。学会のホー

ムページ、ニュースレターなどを駆使して会員間の情報交換、その時々コンセンサス形成に、更に努める必要があります。多様な造血細胞移植療法は、高度且つ高額な医療でありながら学会内外の多くの人々の努力により今そのほとんどが健康保険の適用を受けております。しかしながらこの医療にかかる人手と時間を考える時未だ十分とは言えない部分もあります。我が国の医療財源のことは考慮に入れつつも、足りない部分に関しては適正な評価を受けられるよう今後とも努力したいと思います。造血細胞移植療法において患者の生存率とQOLの向上、ドナーの安全性の確保には医師、看護師をはじめとする熟練した医療スタッフの存在が重要です。優れた医療スタッフを継続的に育てるための造血細胞移植認定（専門）医師・看護師育成システム（制度）を本学会が備えることは社会からも望まれていることです。

この様に、今考えられるだけでも幾つかの命題が本学会には課せられています。もとより全てがすぐに出来るわけではありませんが、理事、評議員をはじめとする学会員皆様と共に一つずつ実現していくため微力を尽くす所存でありますことを皆様にお誓いし理事長就任の挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。